# 宿泊施設 体験で選んで

## ＋αの特色作り 3県で増

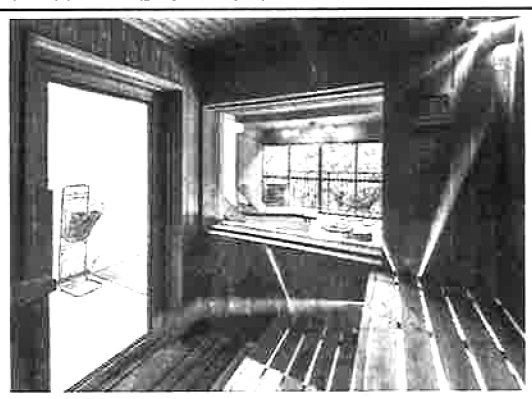
北陸の宿泊施設で特色あるエンターテインメントを売り物に集客する動きが広がっている。菓子作りや地元農家での収穫作業といった体験型サービスや、1日1組限定のサウナホテルなどが登場。新型コロナウイルス感染症を機に、従来の団体客ではなく個人に焦点を当てた戦略を取る施設が相次ぐ。

伝統的な旅館が集まる山中温泉（石川県加賀市）。約60年の歴史がある旅館「お花見久兵衛」は7月のリニューアルに向け、80畳ほどある宴会場や飲食スペースを取り壊す大工事を進めている。

吉本龍平社長は「これからは利用客にサービスを選んでもらう時代になる」と強調する。改修後は新たにカフェを設け、抹茶やお菓子作りの体験スペースも置く。こたつに入りながらボードゲームを楽しめる部屋や、卓球などのレクリエーションも一新する。

目指すのはいわば「娯楽のバイキング」。多様なエンタメを用意し、利用客が宿泊スタイルを自由に選べる旅館に変貌させる。21年にはスマートフォンから音楽や動画を楽しめる貸し切りサウナを新設した。今後2～3年で無料の貸し切り風呂も増やす計画だ。

吉本社長は「旅館の伝統的な、決め打ちでおもてなしする従来のスタイルは変える」と話す。すでに顧客層は20～30歳代の若者中心にシフトしている。「多様なニーズに応えられる宿にする」と話す。



お花見久兵衛の貸し切りサウナでは、音楽なども楽しめる

## エンタメ・農業・サウナ…

## 個人の多様なニーズくむ

24年春の北陸新幹線の敦賀延伸で、金沢市以南の各温泉地は首都圏からの宿泊客増に期待している。芦原温泉（福井県あわら市）では、農業体験を組み合わせて特色を出す旅館が出てきた。

旅館「グランディア芳泉」は21年夏から地元の農家と提携し、農業体験がセットになった宿泊プランを展開している。旅館から徒歩数分の場所に整備した専用の畑で、野菜の収穫や旅館で出た生ごみを使った堆肥作りを体験できる。別の農園では早朝に卵取りをして朝食に食べることが可能だ。

今秋には稲刈り体験をした後、かまどで炊いた新米のおにぎりを持ち帰るサービスを始める予定だ。宿泊予約時にプランを追加して申し込めるようにする。今後も複数の地元農家と連携し、体験プランを増やす方針だ。

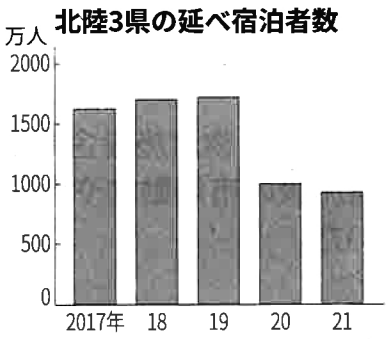
企画した理由について、山口高澄常務は「（食事や温泉など）単においしいや気持ちいいにとどまらず、さらに本物の体験を提供したいと考えた」と話す。

温泉地以外にも地域に新たな魅力を作り出し、「美と健康」をテーマにしたサービスを展開する企業も現れた。前田薬品工業（富山市）の関連会社が運営するリゾート施設「ヘルジアン・ウッド」（富山県立山町）だ。施設内に6月1日、サウナホテル「The Hive（ザ・ハイブ）」を本格オープンさせた。

1日1組限定で最大6人まで宿泊でき、ハーブ畑を目の前に見ながらアロマの香りがするサウナを楽しめる。食事は併設のレストランを使えるほか、キッチンを使って自分で調理することも可能だ。

サウナホテルは首都圏や関西といった県外からの客も多く、主に30～50歳代のグループ利用が多いという。すでに6～7月の金・土曜日は予約でほぼ埋まりつつある。

コロナ禍で旅のスタイルは変化し、団体客から個人客への移行がより鮮明になった。それは北陸だけでなく、他の観光地も同じだ。温泉や自然といった既存の魅力を生かしながら、多様なニーズに応えるべく工夫する重要性が増している。




（出所）宿泊旅行統計調査